

麻酔・蘇生学

1 構成員

	平成18年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	5人（3人）
医員	6人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	5人（0人）
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	23人

2 教員の異動状況

佐藤 重仁（教授）	（H10.4.1～現職）
加藤 孝澄（助教授）	（H15.10.1～現職）
中島 芳樹（講師）	（H16.1.1～現職）
五十嵐 寛（講師）	（H17.7.1～現職）
望月 利昭（助手）	（H15.5.1～現職）
栗田忠代士（助手）	（H10.4.1～現職）
鈴木 明（助手）	（H11.11.1～現職）
中川智永子（助手）	（H17.9.1～現職）
佐藤 直史（助手）	（H17.10.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（1編）
そのインパクトファクターの合計	25.73
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	5編（5編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（5編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	3編 (3編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中川智永子：特集 産婦人科麻酔と新生児蘇生に習熟しよう!! 重症妊娠高血圧症候群の帝王切開. 産婦人科の世界57: 975-980, 2005.
2. Kurita T., Morita K., Fukuda K., Uraoka M., Takata K., Sanjo Y., Sato S.: Influence of hemorrhagic shock and subsequent fluid resuscitation on the electroencephalographic effect of isoflurane in a swine model. Anesthesiology 103: 1189-1194, 2005.
3. Kurita T., Morita K., Fukuda K., Uraoka M., Takata K., Sanjo Y., Sato S.: Influence of hypovolemia on the electroencephalographic effect of isoflurane in a swine model. Anesthesiology 102: 948-953, 2005.
4. Jiang X., Shi E., Nakajima Y., Sato S., Ohno K., Yue H.: Cyclooxygenase-1 mediates the final stage of morphine-induced delayed cardioprotection in concert with cyclooxygenase-2. J Am Coll Cardiol. 45: 1707-1715, 2005.
5. Igarashi H., Obata Y., Nakajima Y., Katoh T., Morita K., Sato S.: Syringe pump displacement alters line internal pressure and flow. Can. J. Anesth. 52: 685-691, 005.

インパクトファクターの小計 [18.97]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Doi M., Morita K., Mantzaridis H., Sato S., Kenny N.C.G.: Prediction of responses to various stimuli during sedation: a comparison of three EEG variables. Intensive Care Med 31: 41-47, 2005.
2. Shi E., Kazui T., Jiang X., Washiyama N., Suzuki K., Yamashita K., Terada H.: NS-7, a novel Na⁺/Ca²⁺ channel blocker, prevents neurologic injury after spinal cord ischemia in rabbits. J. Thoracic Cardiovasc. Surg. 129: 364-371, 2005.

インパクトファクターの小計 [6.76]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 五十嵐寛：特集：Difficult Airway非侵襲的気道確保 (1) ILMA, 気管チューブイントロデューサー, 食道閉鎖式エアウェイ. Anet(Anesthesia Network)9: 9-12, 2005.
2. 加藤孝澄：緩和医療. パナケイア シリーズ 第7回 2005. 河西 稔, 津田喬子 (監) 2005
3. 鈴木 明, 佐藤重仁：特集：全身麻酔器の現況と展望 流量調節装置. 医器学75: 463-467, 2005.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 白石義人, 安澤則之：日本臨床麻酔学会第24回大会パネルディスカッション 術前麻酔科管理の問題点を徹底検証するPBL(Problem based learning) 麻酔リスクのインフォームドコンセントに対する考え方. 日臨麻会誌25: 588-594, 2005.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 板垣大雅, 横山順一郎, 佐藤由紀江, 渥美和之, 藤井俊輔, 白石義人, 及川文雄, 航 尚子, 内山智浩, 鈴木かつみ, 須賀昭彦 塩酸モルヒネ併用0.2%ロピバカインを用いた下腹部手術の術後持続硬膜外鎮痛 — 至適投与速度の検討 — 静岡県立総合病院医誌 19: 37-42

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中島芳樹, 佐藤重仁：II. 術中のトラブルシューティング【手術開始後のトラブル】麻酔科診療プラクティス17 麻酔科トラブルシューティング 264-269, 2005. 弓削孟文(編) ㈱文光堂
2. 鈴木 明, 佐藤重仁：I 手術患者の全身状態の評価 体液・電解質バランス機能評価. 麻酔科術前管理ハンドブック 66-77, 2005. 弓削孟文(編) 真興交易(株)医書出版部
3. 鈴木 明, 佐藤重仁：III 麻酔方法と周術期全身管理計画の立案 体液・電解質バランス機能評価. 麻酔科術前管理ハンドブック2005 170-179, 2005. 弓削孟文(編) 真興交易(株)医書出版部
4. 佐藤重仁：心肺蘇生と脳保護. 麻酔科学レビュー2005 — 最新主要文献集 — 219-224, 2005. 天羽敬祐(監) 総合医学社

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 三条芳光, 佐藤重仁：第18章 関連機器・器材・システムの進歩 1. 麻酔情報システムの新しい流れ 先端医療シリーズ33 麻酔科の新しい流れ 335-339, 2005. 後藤文夫, 並木昭義, 島田康弘, 小川節郎, 真下 節, 古家 仁, 野村 実, 福田和彦(編) ㈱寺田国際事務所/先端医療技術研究所

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 寺田和弘, 金丸哲也, 佐藤直史, 福田員茂, 佐藤重仁：頸部ジストニアに対してリドカイン溶解ボツリヌス毒素を使用した1症例. ペインクリニック 26: 427-429, 2005.
2. 望月利昭, 土井松幸, 佐野秀樹, 中川智永子, 藤井俊輔, 白石義人, 数井暉久, 佐藤重仁：

交通外傷後のMyonephropathic metabolic syndrome (MNMS) において線溶過剰抑制状態が観察された一例。蘇生24: 21-24, 2005.

3. 須藤希実子, 水野香織, 足立裕史, 加藤孝澄, 佐藤重仁: 筋弛緩薬がBispectral Indexを著明に低下させた2症例。臨麻29: 215-218, 2005.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (90万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (261万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	2件 (60万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 鈴木 明 (代表者) 奨励研究 (A) 「摘出微小血管を用いた空気塞栓モデルによる血管内ガス, 血管壁間の接着力の検討」40万円 (継続)
- 加藤孝澄 (代表者) 基盤研究 (C) (2) 「脊髄での麻酔薬による下向性抑制遮断における一酸化窒素cGMP系の役割に関する研究」50万円 (継続)

(5) 受託研究または共同研究

- 「日本人及び白人被験者を対象とした1-2PTC出現時投与におけるOrg25969のブリッジング試験; パートA: 日本人」オルガノン 261万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	4件
(3) 学会座長回数	1件	8件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	16件
(6) 一般演題発表数	6件	

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

1. 佐藤重仁 8th Biennial Congress Asian & Oceanic Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine 千葉市 2005.12.07～10

5) 一般発表

口頭発表

1. Igarashi H., Suzuki A., Sanjo Y., Morita K., Sato S.: The training of the automated anaesthesia record keeper with high fidelity human patient simulator for novice residents. Annual Meeting of the European Society of Anaesthesiology 2005.5.28 – 31 Vienna (Austria)
2. Makino H., Sanjo Y., Mochizuki T., Katoh T., Nakai T., Sato S.: A pilot study to detect esophageal intubation using dual channel visual stethoscope (VisiStetho). Annual Meeting of the European Society of Anaesthesiology 2005.5.28 – 31 Vienna (Austria)
3. Makino H., Itagaki T., Katoh T., Hirano K., Sato S.: Anaesthesia experience improves a good ability to find out difficult airway. Annual Meeting of the European Society of Anaesthesiology 2005.5.28 – 31 Vienna (Austria)
4. Mizuno K., Katoh T., Makino H., Igarashi H., Sato S.: Handheld tesla meter confirmation of gum elastic bougie placement. Annual Meeting of the European Society of Anaesthesiology 2005.5.28 – 31 Vienna (Austria)
5. Mochizuki T., Taniguchi M., Yue H., Sato S.: Nitric oxide donor NOC7 restoration of cardiac contractility from global ischemia in an isolated rat heart model. 2005 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA) 2005.10.22 – 26 Atlanta (U.S.A.)
6. Uraoka M., Suzuki A., Sato S.: Use of two endotracheal tube exchangers is effective for oral tube exchange. IARS 2006.3.24-28 San Francisco (U.S.A.)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

第13回日本集中治療医学会東海北陸地方会

3) シンポジウム発表

1. 五十嵐寛：「挿管困難症へのstrategy」挿管困難症・気道確保困難の予測はどこまで可能か 第52回日本麻酔科学会 2005.6.2～4 神戸市
2. 栗田忠代士：「ターゲットコントロールインフュージョン (TCI) の落とし穴」出血性ショック，輸液蘇生時のプロポフォル濃度変化 第52回日本麻酔科学会 2005.6.2～4神戸市
3. 中島芳樹：シンポジウム (1) 「市民の命を守る麻酔科：なぜわかってもらえない麻酔の光と影」医学生の麻酔科へのまなざし 第25回日本臨床麻酔学会 2005.11.17～19 大阪市
4. 加藤孝澄：充実した教育が将来の麻酔科マンパワーを増やす 日本麻酔科学会東海・北陸

支部第2回学術集会 2006.2.11 安城市

4) 座長をした学会名

- 佐藤重仁：第52回日本麻酔科学会 2005.6.2～4 神戸市
- 加藤孝澄：第52回日本麻酔科学会 2005.6.2～4 神戸市
- 佐藤重仁：第5回静岡県中部臨床麻酔研究会 2005.7.9 静岡市
- 佐藤重仁：日本麻酔科学会東海・北陸支部第1回学術集会 2005.9.3～4 金沢市
- 佐藤重仁：第10回日本心臓血管麻酔学会 2005.9.23～24 岡山市
- 佐藤重仁：第24回日本蘇生学会 2005.11.04～5 宝塚市
- 佐藤重仁：第25回日本臨床麻酔学会 2005.11.17～19 大阪市
- 佐藤重仁：日本麻酔科学会東海・北陸支部第2回学術集会 2006.2.11 安城市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 佐藤重仁：日本麻酔科学会 理事
- 佐藤重仁：日本臨床麻酔学会 理事
- 佐藤重仁：日本心臓血管麻酔学会 理事
- 佐藤重仁：日本麻酔・薬理学会 理事
- 佐藤重仁：日本麻酔科学会東海・北陸支部東海地区支部 理事長
- 佐藤重仁：日本蘇生学会 理事
- 佐藤重仁：日本臨床麻酔学会 評議員
- 佐藤重仁：日本局所麻酔学会 評議員
- 佐藤重仁：日本ペインクリニック学会 評議員
- 佐藤重仁：日本循環制御医学会 評議員
- 佐藤重仁：日本集中治療医学会 評議員
- 加藤孝澄：日本麻酔科学会東海・北陸支部東海地区支部 評議員
- 中島芳樹：日本麻酔科学会東海・北陸支部東海地区支部 評議員
- 五十嵐寛：日本ペインクリニック学会 評議員
- 加藤孝澄：日本医学シュミレーション学会 評議員
- 五十嵐寛：日本医学シュミレーション学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 1回 Journal of Anesthesia（日本）
- 1回 蘇生（日本）
- 1回 Anesthesia and Analgesia（米国）
- 1回 British Journal of Anaesthesia（英国）

9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

1. 「空気塞栓症の予防・治療法に関する研究」ペンシルバニア大学（米国）2004.7.1～2006.6.30
（研究者の派遣）派遣先のグラント

10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	1件

1. (株)コープランニング 呼吸音三次元可視化モニター装置の研究開発と製品化

11 受賞

(1) 国際的な授賞

外国人発表者賞 韓国麻酔科学会

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 心音三次元可視化装置を用い教育用として臨床実習生に使用している。学生には好評であり、今年度中に心音、心雑音の標準的なソフトを開発して市販化への糸口を見つけたい。また呼吸音にもこの装置を用い、特に片肺分離換気時のモニターとして有用性を見出したい。
2. 開腹法によるRSDモデル作成は従来の非開腹法に比べて純粋なCRPSモデルであることが解明された。今後、従来行なわれてきたCRPSモデルに対する治療法の再検討を行なう。
3. ブタを使用した出血性ショックモデルで静脈麻酔薬の濃度が高値を示すことが判った。吸入麻酔薬での出血性ショックモデルと比較検討している。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 心音三次元可視化装置が医学教育用素材として有用であることが判った。今後は浜松医大バージョンのテキストを作成し、本装置の商品化に取り組みたい。
2. 開腹法によるRSDモデル作成は従来の研究結果の矛盾した点の解明につながる可能性を秘めている。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 心音三次元可視化装置：世界的にも類似品はなく本学独自の器材として期待できる。

2. 開腹式CRPSモデル作成は従来の研究データを根本的に覆す可能性があり，CRPSに対して新しい治療薬の発見につながる可能性がある。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 2005.8.20 静岡新聞 脳外科との共同による「言語機能を損なわずに脳腫瘍を摘出する手術」に関する報道
2. 2005.8.3 静岡新聞 「麻酔科医が足りない」という現状に関する報道
3. 2005.11.14 SBSテレビ「テレビタ刊」「麻酔科医が足りない」
4. 2006.1.11 静岡新聞 「医者が足りない2. 変わる制度」